

第32回黒部川土砂管理協議会 議事録

●開催要件

○開催日時 平成24年5月25日（金） 10:00～12:00

○会場 入善町於、「まちなか交流施設 うるおい館」

○出席者

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| ・堀内 康男 黒部市長 | ・小野 洋 富山県生活環境文化部次長 |
| ・米澤 政明 入善町長 | ・城木 一郎 富山県農林水産部次長 |
| ・竹内 寿実 朝日町副町長 | ・林 正之 富山県土木部次長 |
| ・森川 誠道 富山森林管理署長 | |
| ・吉津 洋一 関西電力(株)北陸支社長 | ・田所 正 北陸地方整備局河川部長
(座長) |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)北陸支社

●発言要旨

- (1) 平成24年度連携排砂計画（案）について
- (2) 平成24年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について
- (3) 第37回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果について
- (4) 平成24年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する
関係団体からの意見について

●協議会の結果

- ・平成24年度連携排砂計画、平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画については、了承する。
- ・連携排砂実施にあたっては、今回出された意見を踏まえて、適切に実施されたい。

(1) 平成24年度連携排砂計画(案)についての質疑応答

座長

目標排砂量や細砂通過放流の変更点などの説明がありました。

以上につきまして、ご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

A委員

資料-1の10ページ目にSS値の予測をやっていただいております、これを拝見いたしますと、量も多いということなんでしょうけれども、値が倍ぐらいの数値となっているんですが、これの評価といいますか、これによって何かこれまでにない影響が考えられるのかどうか、あるいは関係団体の方から、これについてのご懸念といいますか、何かご意見があったのかどうかという点について質問させていただきたいと思います。

座長

ただいまのご質問について事務局で何か回答できるものはありますか。

事務局

関係機関につきましては、この値でご説明をしておりますが、その中では特段、疑念ですとか心配する声というのは出ておりませんでした。

ただ、これはあくまでも予測値ですので、確認というのは従来どおりしっかりやっているとというようなことで考えております。

座長

今の説明でよろしいでしょうか。

後ほど議事の4で関係機関からの意見というものもございますが、いろいろまたご質問、ご意見がありましたら、どこでも結構ですので。

A委員

また何かありましたら改めて。

座長

ほかにご意見、ご質問はございませんでしょうか。

B委員

今年の排砂量が61万 m^3 と近年の推移と比べまして多いということで、根拠は昨年6月の排砂後と現在の差だということで、要するに、土砂がたくさんたまったというように理解をしたんですけれども、その辺の原因とか何か分析はしておられるのでしょうか。

座 長

何か説明することがありましたらお願いします。

事務局

先ほどのご質問ですが、昨年度の排砂評価委員会の中でもこの点については分析をしていただいております。今年目標排砂量の設定が参考資料1-1のほうで説明されております。1つは梅雨時期に24万 m^3 たまったという部分と、あと細砂通過放流後、7月以降今年の5月までで37万 m^3 たまったというのが内訳になっております。

その中で、24万 m^3 につきましては、昨年度、通砂時に、20年に一回程度の大きな出水で、ピークが継続するような大出水でした。そのために土砂が流入したものと考えています。特に出し平ダムの上流では不帰谷というような崩壊地もございますので、もともとそこにたまっていたものが大きく引き込まれたのではないかと推測されます。

一方で、平成23年の7月から平成24年の5月につきましては37万 m^3 とほぼ平常並み程度の土砂量ということですので、今回61万 m^3 という一番大きな理由としましては、通砂時の20年に一回の大きな出水によって崩壊時の土砂を引き込んできたことが原因ではないかと考えております。これは評価委員会のほうでもそういった議論をさせていただいております。

以上です。

B委員

ありがとうございました。

大きな出水があったことと上流域からの土砂流出というようなことでございますので、直轄事業で黒部川上流域の砂防事業もやっていただいておりますけれども、今後とも引き続き、上流域での直轄砂防事業でありますとか国有林の適切な維持管理などにもまたご配慮いただければありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

座 長

よろしいでしょうか。

では、ほかにご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

[質疑なし]

(2) 平成24年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について【資料-2】の質疑応答

座長

ご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

C委員

今ほどの説明で40番(土砂堆積調査)のことでございますけれども、「終了または継続」欄は「終了」となっておりますが、必要に応じて実施されるということで、本年度も実施されるというふうに理解してよろしいわけでしょうか。

事務局

はい。そのような計画となっておりますので、今年度も実施いたします。

A委員

調査計画そのものについて何か変更が必要だとは考えておりませんで、これで結構かと思えます。

何点か意見を述べさせていただければと思うのですが、1つは、水生生物について24年度から本調査としてやられるということで、これは大変重要なことだと思っておりますので、是非よろしくお願ひしたいと思ひますし、この結果を活用していただければと思ひております。

2点目は、先ほどもちょっとご質問いたしましたけれども、今年度は排砂量も多いということで、ぜひ環境調査のほうを確実にやっけていただいて、普段より高い濃度が出ることも想定されているようでございますので、モニタリング結果を踏まえて、できるだけ来年度以降、低く抑えるようなこともさらに検討していただければと思ひております。これが2点目でございます。

最後の点は、昨年度も宇奈月ダムの下流で普段より少し高い値が出たというふうにも聞いておりますので、その原因が、宇奈月ダムに何か少しヘドロのようなものがたまってきているのか、あるいはさらにその上流から出たものがそのまま出てきているのか、いろいろ考えられようかと思ひますので、この調査とはまた別に、例えば宇奈月ダムの堆砂状況がどうなっているのかとか、そういうことをできればお調べいただいて、宇奈月ダムからの汚濁ができるだけ少なくなるような方向で、来年度以降も引き続きご検討いただければと思ひております。

以上3点申し上げさせていただきます。

座 長

今3点ご質問等ありましたけど、お願いします。

事務局

宇奈月ダムからの影響ということで、前回の協議会、また評価委員会の中でもいろいろとご議論していただいたところでございます。

それらをきちんととらえていく、あるいは調査をしていくというような観点で、前回の協議会の中でも調査をもう少し手厚くできないのかというようなご指摘がございましたので、事務局のほうで少し検討させていただきました。

場所としましては非常に谷地形で、地点の追加というのは非常に厳しい地域でございますので、現在の地点の調査をしっかりと。昨年度の調査の中では、濁りのピークをうまくとらえ切れなかった可能性がありますので、今年度はそういうことがないように、少し早めの対応といいますか、時間的にも経時的な調査をしっかりとできるようなことで取り組んでいきたいというふうに考えております。

また、ダム湖内という話では、前回の協議会の中で、宇奈月ダムから何か出たものの影響があるのかというようなご質問があった中で、バイブレーション・コア・サンプラーということで、たまったものの調査を急遽してみましたというご報告をさせていただきましたけれども、今年度においては、さらにもう少し深いところまで採れるような調査を実施したいというふうに考えております。

以上です。

座 長

今の説明でよろしいでしょうか。

A 委員

はい。ぜひよろしく願いいたします。また、次回以降の会議の場でその結果もご報告いただければと思います。

ありがとうございます。

D 委員

黒部川で昨年からサクラマスが解禁になったということで、サクラマスのすむ川というのは、河川の環境とすれば非常にすぐれていることが証明されたとマニアの中では言われているということなんですが、サクラマスが解禁できるほどに魚のすむ環境が整ってきたのではないかなということ喜んでおります。

そこで、アユなどの生息の調査等はやっていただいておりますが、折角そういうサクラマスがすめる川になったことによって、今後はサクラマスなどに対しての影響調査などを少し加えていただければありがたいかなというふうに思います。

座 長

今のご意見についていかがでしょうか。

事務局

黒部川ではアユがかなり水産魚種として河道の中では注目されておりますけれども、実際にやっている調査は、アユのみとっているわけではなくて、サクラマスは当然、遡上してきたものですとか稚魚についても捕獲していくということもありますので、その中にも一部既に含まれているというような考え方もございます。

ただ、今ご指摘がございましたので、専門家の方にもまたいろいろと相談させていただきながら、必要な対応があればとっていきたいというふうに思っております。

座 長

今の話は非常に大事なことで、これだけ長年かけてやってきた連携排砂の1つの目に見える形かもしれませんので、できる範囲で取り組めるようによろしくお願いします。

ほかにご意見、ご質問がありましたらお願いします。

[質疑なし]

(2) 平成24年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について【資料-3】の質疑応答

座 長

今の説明につきましてご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

(3) 第37回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果についての質疑応答

座 長

ただいまの議題3の報告につきましてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

(4) 平成24年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する関係団体からの意見についての質疑応答

座長

何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

C委員

今説明がありましたとおり、農業や水産業に関しましては排砂と関係する多くの団体があるわけですが、それぞれの団体にはそれぞれの立場に立った要望や思いがございます。そういったことを踏まえまして、全般的な要望ということになりますが、3点お願いしたいと思います。

1つ目は、実施機関におかれましては、今後とも関係団体の意見や要望を十分にお聞きいただいて調整を図っていただきたいということでございます。

2つ目は、排砂や通砂を行う場合には、その影響が極力低減されるやり方で実施していただきたいということでございます。

3つ目は、環境影響調査につきましても十分にしっかり実施していただきたいということです。

以上でございます。

座長

3点お話がありました。事務局から何かコメントがあればお願いします。

事務局

3点ご意見いただきました。

1点目のしっかり要望を聞くということにつきましては、現在もしっかりやっているつもりではございますけれども、引き続ききちんとお話を聞きながら、また意見交換等しながら進めていきたいというふうに思っております。

2つ目の環境への影響をできるだけ少なくするような方法ということでございますが、これにつきましても、これまでもいろいろな工夫をしながら、同じことを続けるということではなくて、いろいろな改善方法を模索しながら進めてきたような経緯もございまして、引き続きこれもよりよい排砂に向けて努力をしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

3つ目の調査についてもしっかり充実させてほしいということで、これも1点目、2点

目と関係してくるわけでございますけれども、ご要望等を聞きながら、あるいはどのようなことを調査して改善していくことに役立てていくかということを考えながら、しっかり調査は続けていきたいというふうに思っております。

以上です。

座 長

そのほかご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

その他の質疑応答

座 長

今の説明は3月29日の排砂評価委員会での議論を踏まえて、このペーパーに今回まとめて説明したということですね。

事務局

はい、そういうことです。

座 長

わかりました。

ご意見、ご質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

D委員

今の説明につきましては大変大事な点だというふうに思っておりまして、最近、例えば昨年の全国各地での集中豪雨などで深層崩壊なんていう言葉が出て、以前からあったんでしょけれども、大規模地すべりとか土砂崩壊みたいなものが起きているんですが、恐らく黒部川上流域においても大規模な崩壊が何カ所も起きているのが、そういう言葉であらわせるのかどうか私はわかりませんが、とにかく大規模な土砂崩壊が毎年のように起きているのではないかなというふうに思います。

そこで、その崩壊の規模というか量みたいなものが、おおよそでもいいけど、毎年確認できるのかどうかということが1点あります。そして、それによって宇奈月ダム、出し平ダムにどれだけの量が流れ込んできて、どういう質のものを連携排砂などで流しているのか、総合土砂管理という理念をきちっと毎回確認しなければいけないのではないかなと。

両ダムにたまったものを自然環境にできるだけ影響のないように流すことを今まで中心的にやってきたんですが、本来、上流域でどれだけ崩壊しておって、それが両ダムにどれだけ届いて、そして届いていないものはどういう質のもので、どれだけの量があって、それをどう考えなければならないのかということは、ちゃんと押さえていかなければならないのだらうなと思います。

今の説明などによりまして、大きなものは流れてきていないだらうということで、黒部川河口から10km地点ぐらいから、愛本堰堤から宇奈月ダムまでの間は大きなものが流されてこない結果、河床が下がっていくということは、黒部川流域に住む我々にとっても大変大きな問題になりますので、その辺の総合的な土砂管理としてどういうことが起きて

いて、それをどういう方向で我々は管理していくんだということをきちっと毎回押さえていくということが大事ではないかなというふうに思います。

座 長

今のご意見について何かコメントがあればお願いします。

事務局

黒部川は排砂に限らず、総合的な土砂管理をしていく、きちんと取り組んでいくんだということを国土交通省としても考えておりますし、そういうモデル的な河川としていろいろ先進的な取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

今ご意見いただきました、これまでは自然環境に悪影響を与えないようにやるということに随分専心してきたところがあるけれども、これからは、例えば質的なものですとか、もっと大きな目で土砂管理を考えていくということにも取り組まなければいけないのではないかなというようなご指摘だと思いました。

今回、現況報告にとどまりましたけれども、今いただいた意見も踏まえまして、今後、粒径ですとか質的なもの、これをきちんとどういうふうにしていくかということを考え、何か具体的な対策をとる必要があれば、関係機関等とも協議しながら、自然環境にできるだけ影響のない形を模索しながら、具体的な取り組みをしていくということに向けて考えていきたいというふうに思います。

座 長

今の説明でよろしいでしょうか。

D 委員

はい、わかりました。

座 長

ほかにご意見、ご質問がありましたらお願いします。

E 委員

先ほどのサクラマスが確認されたという話とか、海浜が拡大しつつあるという話は、非常にうれしい兆候が見られてきているのかなと思って喜んでおりますが、先ほど資料-1のご説明で、宇奈月ダムが計画堆砂容量1,200万 m^3 に対してまだ700万 m^3 前後だということをございますね。

私の想像では、もう少しこの計画堆砂量に近づいていって、いわゆる堆砂の勾配が安定してくれば大きな粒径も下流に補給されるようになるのではないかなというふうにも思うん

ですが、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局

恐らく、今おっしゃったとおり、勾配というか堆積が計画のものにどんどん近づいてきてより流れやすくなってくれば、大きい粒径のものもさらに流れやすくなってくるんだろうというふうに思います。

ただ、ダムができてから10年たった現在でもまだこれぐらいの位置までしか来ていないということと、資料1の8ページに今後の予測のデータが載せてありますけれども、平成21年に10年後を予測した平成31年の値でもまだ計画堆砂量には達していない、760万 m^3 という予測。流量は毎年予測どおりいきませんので、単純にこのとおりではないと思いますけれども、傾向としてはまだまだ時間がかかるのではないかというふうに読み取っております。

そういう意味で言えば、このようなある程度大きい粒径のものがなかなか出づらいということは、放っておいたらまだしばらく続くのではないかなということ懸念しておりますので、今D委員がおっしゃったとおり、何かきちんと考えるべきだという視点に立って、放っておいても、そのうち将来になるのかもしれないけれども、やはりそれではいろいろとデメリットが生じてくるというような視点に立ちまして、何か必要なことがあれば早めに手を打っていきたいということも考えているところでございます。

E委員

わかりました。ありがとうございました。

座長

ほかにご意見、ご質問がありましたらお願いします。

[質疑なし]

座長

それでは、準備した資料に関する説明は以上で終わりました。

本日の全般につきまして何かご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

座 長

ご意見、ご質問がないようでしたら、本日の議事についてまとめさせていただきます。

議題の1の連携排砂計画で、平成24年度は23年度の計画を踏まえながらも、細砂通過放流の一部修正を行うということがございました。

議題の2で、環境調査計画やマクロベントスの分析などについての説明がございました。

議題の3の排砂評価委員会の開催結果の説明、そして議題の4、いわゆる関係団体からの意見の説明がございました。関係団体からのご意見につきましては、引き続ききちんとした姿勢で取り組んでいくということでございます。

最後に1枚の表裏のカラーコピーの資料で説明がありましたが、10年経過後の状況ということでありました。D委員からも意見がありましたように、総合的な土砂管理という観点から検討をして何か対策をすることができれば、より自然に近づけていくということで、これまでの長年の取り組みの延長として、さらにプラスの効果が出てくるのではないのかなと座長としても期待しているところでございます。

今日の議事の取りまとめとしては以上のようなところであると思いますので、実施主体である国土交通省、関西電力におきましては、平成24年度の連携排砂等を適切に実施するというところでよろしいでしょうか。

[各委員うなずく]

座 長

その他、委員の皆様方、何かご意見、ご要望がございましたらお願いいたします。

[質疑なし]

座 長

ないようでしたら、以上で本日の議事を終了いたします。どうもご協力ありがとうございました。